

精神科領域専門医研修プログラム

- 専門研修プログラム名：弘前大学病院連携施設 精神科専門医研修プログラム

- プログラム担当者氏名：齊藤 まなぶ
住 所：〒036-8563 青森県弘前市本町 53
電話番号：0172-39-5066
F A X：0172-39-5067
E - m a i l：smanabu@hirosaki-u.ac.jp

- 専攻医の募集人数：（ 9 ）人

- 応募方法：履歴書を下記宛先に郵送またはメール送付の上、面接申し込みを行う。
担当者：齊藤 まなぶ
<郵送の場合>
宛先：〒036-8562 青森県弘前市在府町 5
弘前大学大学院医学研究科神経精神医学講座
<メールの場合>
E-mail： smanabu@hirosaki-u.ac.jp

- 採用判定方法：
当講座教授・准教授・講座マネージャーが履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。結果は郵送またはメールで返答する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念（全プログラム共通項目）
精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命（全プログラム共通項目）
患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 専門研修プログラムの特徴
弘前大学医学部神経精神医学講座は講座開設以来 80 年を超える歴史と伝統をもち、臨床から研究に至る幅広い領域において精神医学の発展に大きな功績を残してきた。現在も日本の精神医療を牽引する存在として、医局員は幅広い領域で活躍している。弘前大学病院専門医研究プログラムで

は、精神科医専門医として総合的な知識とスキルを身につけるだけでなく、難治症例や乳幼児・児童思春期診療に特化している点が他の施設群にはない弘前大学特有の研修となっている。

基幹病院となる弘前大学の神経科精神科は、41床のベッドを有し、閉鎖病棟、隔離室、観察室も十分なスペースを確保しており、難治例、身体合併症例などほとんどのケースに対応している。特に薬物療法、乳幼児・児童思春期診療は日本を代表する医療施設となっており、豊富な症例と研究に接することができる。専攻医は入院患者の主治医となり、教員の指導を受けながら、看護、心理、リハビリテーションの各領域とチームを組み、各種精神疾患に対し生物学的検査・心理検査を行い、薬物療法、精神療法、修正型電気療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行っていく。研修の過程でほとんどの精神疾患、治療についての基礎的な知識を身につけることが可能である。

むつ総合病院、つがる総合病院、十和田市立中央病院、八戸市立市民病院といった青森県内の主要医療機関（総合病院）の精神科に加え、触法患者が豊富な青森県立つくしが丘病院、m-ECTセンターのある弘前愛成会病院、北東北てんかんセンターを併設する湊病院といった県内主要3市にある単科精神科病院が連携施設に属しており、専攻医はこれらの施設をローテーションしながら研鑽を積み、臨床精神科医としての実力を向上させつつ、専門医を獲得することが可能である。さらに、精神保健行政機関とも連携しており、希望に応じてこれらの施設での研修を行うことにより、さらに幅広い知識を習得することが可能である。

精神医学は、極めて幅広い領域を包含しており、そこには生物学的、心理学的、社会的な次元に加え、実存的・哲学的問題も関与している。複雑を極める精神現象を理解して、治療するため、乳幼児から児童・思春期、壮年期、老年期に至る人間のライフステージすべてに研究のメスを入れ、アプローチも脳科学、分子遺伝学、精神病理学、心理学、社会学など多岐に亘る。この多様性をもって、謎に包まれた心と脳の神秘に肉薄することこそが弘前大学神経科精神科の特色である。

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数： 61 人
- 2019 年度のプログラム施設全体の症例数

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	7466	1965
F1	945	392
F2	8316	2822
F3	7179	1167
F4 F50	4925	406
F4 F7 F8 F9 F50	3355	373
F6	324	60
その他	3348	204

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名：弘前大学医学部附属病院
- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：大山 力
- ・プログラム統括責任者氏名：中村 和彦
- ・指導責任者氏名：中村 和彦
- ・指導医人数：（ 7 ）人
- ・精神科病床数：（ 41 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	143	4
F1	18	5
F2	405	56
F3	425	66
F4 F50	464	22
F4 F7 F8 F9 F50	340	27
F6	41	3
その他	560	17

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 636 床を有する大学病院であり、精神科は 41 床の病棟を有している。高度専門医療機関として、主に難治性の症例を中心に統合失調症（F2）、気分障害（F3）、神経症性障害（F4）などの治療にあたっている。さらに、精神科薬物療法、乳幼児の発達障害の診断や児童思春期精神障害の治療では日本を代表する施設で

あり、専門性の極めて高い専門外来を持っている。また認知症、身体合併症治療、リエゾン・コンサルテーション、難治性統合失調症に対するクロザピン治療など精神科臨床を幅広く経験できることも特徴である。定期的な症例検討での丁寧な指導、専門家の特別講義などの学習の機会も豊富であり、専攻医にとっては望ましい環境である。研究は、乳幼児の発達評価、病態解明研究、疫学（コホート）研究、思春期世代の自殺予防、薬物療法研究、気分障害、老年期研究などを行っており、抄読会やリサーチカンファレンスを通して研究の面白さを学ぶ機会がある。希望者は専門研修と研究を並行することができる。

B 研修連携施設

(1) 施設名：つがる西北五広域連合つがる総合病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：岩村 秀輝
- ・指導責任者氏名：坂本 卓子
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 44 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	568	35
F1	32	4
F2	553	71
F3	769	115
F4 F50	282	14
F4 F7 F8 F9 F50	12	3
F6	4	0
その他	749	18

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 438 床を有する総合病院であり、44 床の精神科病棟を有している。身体合併症を併存する精神疾患を中心に、双極性感情障害、認知症、統合失調症、思春期症例、他科入院中のせん妄、精神腫瘍医学領域などを含む、多様な疾患、症例を経験し、入院治療の実践経験を積むことができる。

又当科は認知症医療センター業務を行っており、認知症の診断、治療、マネジメントに関しても実践的な経験を積むことが可能である。

(2) 施設名：青森県立つくしが丘病院

- ・施設形態：公的単科精神科病院
- ・院長名：堀内 雅之
- ・指導責任者氏名：堀内 雅之

- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(230) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	300	30
F1	19	5
F2	900	180
F3	395	70
F4 F50	310	50
F4 F7 F8 F9 F50	150	4
F6	26	7
その他	102 (てんかん)	4 (てんかん)

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当院は 230 床を有する青森県病院局所属の県立単科精神病院である。急性期入院医療を主として、応急入院を含めた精神科救急、児童青年期精神医療、認知症疾患医療センター指定、訪問看護や行政・福祉との連携、司法精神医学など包括的な臨床経験を積むことができる。複数の指導医による教育支援体制も整っている。

また、弘前大学医学部神経精神科、青森県立中央病院、精神保健福祉センター、保健所、児童相談所などと連携・交流研修も可能で、多様な場面で精神科医師としての経験とあり方を学ぶことができる。

研修医の希望を最大限に受け入れ、資格取得のみならず医師 (一人の人間) として生きていく将来にも大きな糧となる研修期間を過ごせるよう努めたい。

(3) 施設名：一般財団法人愛成会 弘前愛成会病院

- ・施設形態： 単科精神科病院
- ・院長名：田崎 博一
- ・指導責任者氏名：田崎 博一
- ・指導医人数：(7) 人
- ・精神科病床数：(328) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	563	171
F1	54	21
F2	738	394
F3	510	93
F4 F50	320	11
F4 F7 F8 F9 F50	219	21
F6	16	2

その他	230	6
-----	-----	---

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は328床の津軽二次保健医療圏精神科医療の中核的役割を担う精神科病院である。病棟は精神科急性期治療病棟（精神科救急入院料病棟の申請準備中）、認知症治療病棟、精神療養病棟（3棟）及び精神一般の6病棟から構成される。

地域の精神科救急医療を担い、救急輪番制度への対応に留まらず、365日救急対応できる体制を取っている。令和2年度中の認定を目指し精神科救急入院料病棟（スーパー救急病棟）設置の準備を進めている。救急医療における非指定医業務に対する指定医のバックアップ、指導体制も万全を期している。

外来患者の疾患構成は地域の精神医療ニーズを反映しており、統合失調症等の精神病、気分障害、認知症を含む器質性疾患、神経症性障害や発達障害、児童青年期など多彩である。外来も多職種で対応し、精神保健福祉士による情報収集や社会資源とのマッチング、心理職による検査や心理治療なども常時、行われている。

入院診療においては急性期からいわゆる重度慢性期までさまざまな病態、病期の治療を研修することができる。特に統合失調症、気分障害、認知症関連の病態が多い。院内部門として麻酔機器等を完備したECTセンターを設置し、年間約400件のm-ECTを実施している。麻酔科医としての経験を有する医師による指導により、研修することができる。また、難治性統合失調症に対するクロザピン治療も行っている。

院内部門として在宅生活支援センターを設置し、精神障害者の退院支援、地域生活支援に積極的に取り組んでいる。精神科デイケア、精神科訪問看護、就労支援、地域移行・地域定着支援、グループホーム運営などの事業を展開している。行政機関、地域の社会福祉施設等との連携も円滑であり、地域連携、多職種チーム医療の実践的研修が可能である。

県から認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症医療においても地域の中核的な機能を果たしている。一般医療機関、介護・福祉機関との連携が機能しており、認知症の診断と治療、BPSDの治療等に加え、地域の専門職や住民への研修・啓発活動も行っている。認知症医療における予防・啓発、早期発見、診断・治療（通院及び入院）といった総合的な研修が可能である。

院内部門としてメンタルヘルス支援センターを設置し、企業・事業所におけるメンタルヘルス活動を支援している。ストレスチェック制度においてはストレスチェックから医師による面接指導まで制度全般にわたり対応できる体制を整備した。専門医研修においては産業精神保健の基礎から実践までの全般を指導する。希望があれば研修期間中に日本医師会認定産業医の取得が可能である。

毎月1回、国内から外部講師を招聘して「精神医学セミナー」を開催し、地域の精神科医等に研修、研鑽の機会を提供している。これは、医師再教育事業として評価されている。

(4) 施設名：高松病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：高松 幸作
- ・指導責任者氏名：海老名 恵

- ・指導医人数：(7) 人
- ・精神科病床数：(239) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	951	437
F1	63	40
F2	226	105
F3	334	49
F4 F50	290	13
F4 F7 F8 F9 F50	15	0
F6	2	0
その他	71	4

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当院は 239 床を有する単科精神科病院である。当院では急性期治療病棟、精神療養病棟、認知症治療病棟を有し、統合失調症、気分障害、神経症性障害、認知症などを中心に、急性期から慢性期まで幅広く対応している。特に認知症に関しては、認知症疾患医療センターの指定を受け、認知症専門外来を開設し、認知症の前段階 (軽度認知障害) から重度の認知症まで幅広く治療に関わることが可能である。認知症の行動・心理症状の治療のため入院となる症例では、地域の医療機関、行政、家族会などの関係機関と密に連携することで、入院から退院後の生活支援まで学ぶことができる。また、当院では毎週医師を含めた多職種職員が集まり診断会議を開催し、新患症例の診断・治療について検討している。自分が携わっていない様々な症例に触れることができ、多くの診断、治療方針について習得することが可能である。さらに、CT、MRI を完備し、画像カンファレンスを開催しているため、画像診断についても研鑽を積むことができ、身体合併症を有する症例に関しても、常勤の内科医と連携しながら積極的に対応しているため、精神疾患のみならず内科的な知識の習得も可能である。

(5) 施設名：市立函館病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：森下 清文
- ・指導責任者氏名：安藤 嘉朗
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(50) 床 (ただし、現在休床中)
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	108	0
F1	12	0
F2	46	0

F3	68	0
F4 F50	30	0
F4 F7 F8 F9 F50 児童	3	0
F6	4	0
その他	41	0

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は648床を有する総合病院であり、精神科は外来のみを有している。当科は、地域の基幹病院で急性期型の総合病院の無床精神科として、他科からの診察依頼を中心に、精神科疾患全般にわたる診療を行っている。他科からのコンサルテーション中心の診療であるが、当院は当科のほかに25科の診療科があり、高度救命救急センターもあり、診療対象は多彩で、精神疾患全般にわたる研修が可能である。また、特にチーム医療、プライマリーケアで遭遇する精神症状、身体疾患に合併する精神症状について重点的に研修ができる。

診療対象は、精神病圏の疾患、神経症圏の疾患、身体的基盤のある精神疾患、児童思春期から老年期まで、精神科全般にわたっているが、特に、総合病院の精神科として、①身体科治療中の患者のコンサルテーション・リエゾン・サービス、せん妄や不安・抑うつ患者への対応、精神科合併症を有する患者の精神疾患治療、②救命救急センターを受診した患者の精神疾患への対応、自殺企図患者への対応、③がん患者の緩和ケア診療、④老年期患者の診断と治療については集中的に経験ができる。

認知症性疾患については、自院で頭部MRI検査、脳血流SPECT検査、DATスキャン、MIBG心筋シンチ、超音波検査ができ、画像検査結果については放射線科医による読影もあり、鑑別診断のために神経内科・脳神経外科との連携も可能な恵まれた環境にあり、先進的・学際的な研修が可能である。

臨床心理士による複雑な心理検査も可能で、認知症の診断に関しては最先端の研修が可能である。BPSDへの対応へのニーズも高く、多数の経験が可能である。院内で行われる多数の勉強会、定期的な症例検討会・文献抄読会への参加も可能である。

(6) 施設名：十和田市立中央病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：高橋 道長
- ・指導責任者氏名：谷地森 康二
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(50) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	150	5
F1	85	24
F2	420	54

F3	1047	96
F4 F50	470	17
F4 F7 F8 F9 F50	120	3
F6	18	2
その他	137	7

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は369床を有する総合病院であり、50床の精神科病棟を有している。地域の中核を担う総合病院として、精神科急性期治療病棟（平均在院日数50日程度）として運用しており、急性期・救急・リエゾンを中心に児童思春期を含めた幅広いライフサイクルを経験できる。気分障害圏を中心に診療しているが、経験が困難とされる、児童思春期や器質性精神障害等の医療保護入院症例も容易に経験可能。措置入院、医療観察法の症例も経験可能である。総合病院ならではのリエゾン、全科当直、日常業務での他科との連携、電子カルテ医療を通して一般医療の枠組みで精神医療が体験できる。MRI・スペクト・MIBGシンチ等を利用した認知症の精査が可能である。

地域連携活動（地域での保健相談、アウトリーチ活動、認知症の啓蒙活動『じゅんちゃん一座』）を活発に行っている。

(7) 施設名： 社会医療法人 松平病院

- ・施設形態： 単科精神科病院
- ・院長名： 北條 敬
- ・指導責任者氏名： 北條 敬
- ・指導医人数：（ 1 ）人
- ・精神科病床数：（ 182 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	30	26
F1	11	4
F2	546	211
F3	295	34
F4 F50	171	3
F4 F7 F8 F9 F50	72	2
F6	9	1
その他	14	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は182床を有する単科精神科病院である。統合失調症が多く、患者年齢層が比較的若い。福祉施設（就労継続支援A、B型・多機能型サービス事業所・グループホーム等）が充実しており、自立支援、社会復帰に力を入れている。また、デイケア・デイナイトケアの利用者も多く、訪問看護を積極的に行っている。ア

ニマルセラピーをはじめ、精神科リハビリテーションや家族心理教育にも取り組んでおり、家族教室を定期的開催している。

(8) 施設名：医療法人社団聖康会 聖康会病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：吉田 和貴
- ・指導責任者氏名：知多 美彦
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(88) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	79	12
F1	10	1
F2	118	72
F3	132	15
F4 F50	150	2
F4 F7 F8 F9 F50	8	1
F6	7	4
その他	152	2

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は 88 床を有する単科精神科病院である。津軽地区の広範囲からの受診があり、統合失調症、気分障害、神経症性障害などを中心に幅広く診療することができる。高齢者については在宅および施設からの来院も多く、高齢者の地域における生活状況を含めた広い視野からの診療が可能である。訪問看護、デイケアも実施しており、診察室以外の地域に住む患者層に接することができる。

(9) 施設名：青森県立精神保健福祉センター

- ・施設形態：精神保健行政機関
- ・院長名：田中 治
- ・指導責任者氏名：田中 治
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(0) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	0	0
F1	1	0
F2	5	0
F3	9	0

F4 F50	16	0
F4 F7 F8 F9 F50	28	0
F6	11	0
その他	0	0

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当施設は県立の精神保健センターであり、地域の行政機関である。成人の発達障害を対象としてショート・ケアを行っているため、大人の発達障害を中心とした診療を行っている。大規模デイ・ケアを実施しており、社会復帰・就労支援プログラムを行っている。精神疾患全般に対する治療、相談支援を行っている。

(10) 施設名：八戸市立市民病院

- ・施設形態：公的総合病院
- ・院長名：今 明秀
- ・指導責任者氏名：平野 敬之
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 50 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	76	18
F1	31	11
F2	258	51
F3	225	35
F4 F50	398	18
F4 F7 F8 F9 F50	505	24
F6	24	5
その他	105	10

- ・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は608床を有する総合病院であり、50床の精神科病棟を有している。精神科病棟は一般病棟に併設された形の独立病棟で、指定病床はなく、個別開放処遇を取り入れた男女混合閉鎖病棟の構造となっている。当院における精神神経科の位置付けは、「地域医療の3次救急基幹病院に設置された小規模有床精神科（地域精神科救急システム輪番日以外でも救急対応）」であり、対象は児童・青年期、成人期、老年期の幅広い年齢層にわたり、その様々な精神障害の理解と治療に当たっている。そのため、一般的精神科と比較し、慢性の統合失調症や認知症、アルコールなどの依存の症例数は少ない。また、地域の精神保健においては、八戸保健所と八戸児童相談所の嘱託業務を担い、緩和ケアや院内外のリエゾン事例はもちろん、他医療機関と緊密に連携して精神障害者の身体合併症事例を積極的に受け入れている。平成30年より児童思春期外来を開設している。

(11) 施設名：医療法人社団 清泉会 布施病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：布施 泉
- ・指導責任者氏名：林本 章
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(120) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	620	211
F1	39	20
F2	485	150
F3	241	14
F4	224	10
F5	0	0
F6	8	0
F7	48	9
F8	14	2
F9	17	0
その他	66	3

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当院は120床の単科精神科病院である。外来は1日平均86人。児童思春期、成人、老年期まですべての年代の精神疾患に対応している。疾患としては統合失調症圏、気分障害圏、認知症圏、神経症圏が中心であるが、近年は認知症の増加が目立っている。そのほか発達障害、アルコール依存症、パーソナリティ障害等の患者も幅広く来院する。コメディカルスタッフが充実し、作業療法・心理教育・デイケア・訪問看護等を積極的に行っておりチーム医療を経験することができる。

(12) 施設名：医療法人 清照会 湊病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：工藤 清太郎
- ・指導責任者氏名：工藤 清次郎
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(278) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	114	97
F1	8	23
F2	32	124
F3	95	49

F4 F50	96	3
F4 F7 F8 F9 F50	34	9
F6	4	4
その他	89	22

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科急性期治療病棟を含む 278 床の精神科病床を有しており、主に内因性精神病を主とした各種精神疾患の急性期対応を中心に、身体疾患を合併している精神疾患患者の治療やリエゾン症例、認知症周辺症状を始めとした老年期の精神疾患など、幅広い臨床研修を履修することができる。

また、精神科救急医療システムや措置入院症例など、地域における救急医療への従事を通じてその対応を学ぶと同時に、精神保健行政機関と連携しての初期介入から退院、地域移行まで一貫した実践経験を積むことが可能である。

更に、修正型電気けいれん療法の実施、薬剤抵抗性統合失調症に対するクロザピンによる薬物療法の導入、アルコール依存やてんかんなど、精神科各専門分野の研修を幅広く経験できることや、同法人内の社会復帰施設や就労支援事業所と連携し総合的な社会復帰支援を行えることも当院の大きな特徴である。

(13) 施設名：医療法人 芙蓉会 芙蓉会病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：村上 拓也
- ・指導責任者氏名：村上 拓也
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(354) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	235	145
F1	127	61
F2	586	143
F3	380	61
F4 F50	150	20
F4 F7 F8 F9 F50	878	50
F6	42	6
その他	21	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、精神科急性期治療病棟を含む 354 床の単科精神科病院である。主に内因性精神病を主とした各種精神疾患の急性期対応を中心に、身体疾患を合併している精神疾患患者の治療やリエゾン症例、認知症周辺症状を始めとした老年期の精神疾患など、幅広い臨床研修を履修することができる。特に児童思春期症例が豊富、デイケアが豊富（大規模、児童思春期、シルバーの3つある）、長期

入院者の退院促進を積極的に行っている、地域に根差した医療の展開、措置入院症例も豊富という特徴をもつ。

(14) 施設名：医療法人青仁会青南病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：深澤 隆
- ・指導責任者氏名：深澤 隆
- ・指導医人数：(3) 人
- ・精神科病床数：(199) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	377	139
F1	85	57
F2	365	271
F3	337	154
F4 F50	161	67
F4 F7 F8 F9 F50	92	137
F6	5	4
その他	0	21

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、八戸二次医療圏において精神科医療の中核的役割を担う精神科病院であり、精神障害者の社会復帰や地域生活のための施設や高齢者施設なども運営している。外来患者の疾患構成は、統合失調症等の精神病や気分障害、認知症を含む器質性疾患、神経症性障害や発達障害と幅広く、実際の診療では、患者・家族の視点に立った精神科チーム医療の提供や訪問診療、訪問看護、かかりつけ医と協働した在宅医療の支援、精神科救急医療の提供などを始め、近年では大規模災害時の精神科医療の支援にも積極的に取り組んでいる。

病床は、精神一般病棟 52 床、精神科療養病棟 87 床、認知症治療病棟 60 床の 4 病棟を運営しており、入院診療においては急性期から慢性期まで様々な病態や病期の治療を研修することができる。また、県より指定を受けた認知症疾患医療センターを併設し、関連法人でも若年性認知症総合支援センターを運営しており認知症専門医療機関として高齢者の精神障害への対応の中核的役割、及び在宅医療や医療介護連携の後方支援的役割を果たしている。

その他日本老年精神医学会の認定施設として専門医の育成や研修、臨床研究や臨床試験などを行いながら、地域の医療機関や関係機関とも積極的に連携を図りつつ、八戸地域で開かれた精神科医療を展開している。

(15) 施設名：一部事務組合下北医療センター むつ総合病院

- ・施設形態：公的総合病院

- ・院長名：橋爪 正
- ・指導責任者氏名：佐々木 全英
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(54) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	374	42
F1	34	4
F2	572	69
F3	322	32
F4 F50	619	10
F4 F7 F8 F9 F50	54	1
F6	17	3
その他	258	19

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)
 当院は434床を有する総合病院であり、54床の精神科病棟を有している。人口約9万人の医療圏における唯一のメンタルヘルス科であり、統合失調症、双極性障害、神経症圏をはじめとした幅広い疾患、症例を経験し、入院治療の臨床経験を積むことができる。認知症について、診断、治療、随伴症状をはじめとした急性期管理をはじめとして臨床経験を積むことが可能である。平成29年7月より認知症疾患医療センターを開設した。

(16) 施設名：医療法人社団来蘇圓会 黒石あけぼの病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：藤田 康文
- ・指導責任者氏名：古郡 華子
- ・指導医人数：(1) 人
- ・精神科病床数：(193) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	331	55
F1	15	6
F2	169	15
F3	70	14
F4 F50	47	5
F4 F7 F8 F9 F50	86	12
F6	2	0
その他	62	2

・施設としての特徴

当院は黒石市を中心として南津軽郡一円を診療圏としている。193 床で精神一般病棟（閉鎖）・認知症治療病棟・精神療養病棟を有している。またデイケア棟を有しており、一日 20 名程度が通所している。津軽地域の精神科救急の一翼を担っており、救急輪番制度に参加している。知的障害者施設・授産施設や養護・特別養護老人ホームなど地域で多数の施設の嘱託医を担当している。その他地域住民への啓蒙活動や看護学校講師なども担当している。

当院は長く慢性期治療が中心であり、現在でも入院患者の 7 割程度が 1 年以上の在院である。しかし近年は新規入院患者の 6 割程度が 3 ヶ月以内に退院しており、時代の流れで入院期間短縮の傾向が顕著である。入院は地域の精神医療ニーズを反映して認知症患者が多いが、統合失調症・双極性障害・心因性疾患などの急性期治療も行っている。認知症治療においては介護・精神科治療・内科治療の三つを重視している。当院には内科常勤医がおり、精神科病院として十分な内科治療を提供可能である。精神保健福祉士や作業療法士などコメディカルの体制が厚く、地域の行政機関や他科医療機関との関係も良好であり多職種チームによる地域医療連携が行われている。

研修としては認知症を中心に様々な疾患の急性期から慢性期まで経験可能である（ただし児童思春期・薬物依存症例は乏しい）。またてんかん診療に長年実績のある医師が常勤しており、希望があれば脳波判読などの研修も可能である。

(17) 施設名：大館市立総合病院

- ・院長名：吉原 秀一
- ・指導責任者氏名：佐藤 靖
- ・指導医人数：（ 2 ）人
- ・精神科病床数：（ 60 ）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	59	49
F1	35	26
F2	350	71
F3	328	38
F4 F50	313	21
F4 F7 F8 F9 F50	346	23
F6	6	2
その他	264	29

・施設としての特徴

当院は一般病床 375 床、精神科病棟 60 床を有している。平成 28 年 10 月に認知症疾患医療センターをオープンし、地域の認知症診療拠点として機能している。またがん診療拠点病院でもあり緩和ケアチームに属し、豊富な治療経験を積むことができる。さらにはコンサルテーション・リエゾン医学ではせん妄を主とした多彩な器質性精神疾患についての症例を経験する事ができる。その他、大

館・鹿角地域唯一の救急拠点病院として精神科救急はもちろん、難治性統合失調症患者に対するクロザピンによる薬物治療も実施可能であるなど、地域の重篤な患者を積極的に受け入れている。

(18) 施設名：東台病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：畠山 光徳
- ・指導責任者氏名：畠山 光徳
- ・指導医人数：(2) 人
- ・精神科病床数：(150) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0	20	9
F1	3	0
F2	85	143
F3	80	19
F4 F50	40	3
F4 F7 F8 F9 F50	11	7
F6	0	0
その他	52	0

- ・施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当院は、当院は大館市を中心として鹿角地域を診療圏としている。150 床で精神一般病棟(閉鎖)、精神療養病棟を有している単科精神科病院である。主に内因性精神病を主とした各種精神疾患の急性期対応から重度かつ慢性期まで身体疾患を合併している精神疾患患者の治療や認知症周辺症状を始めとした老年期の精神疾患など、幅広い臨床研修を履修することができる。特に長期入院者の退院促進を積極的に行っている、地域に根差した医療の展開する症例が豊富という特徴をもつ。

(19) 施設名：一般財団法人済誠会 十和田済誠会病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：江渡 篤子
- ・指導責任者氏名：江渡 篤子
- ・指導医人数：(5) 人
- ・精神科病床数：(250) 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	22	4
F1	20	5
F2	391	206
F3	170	34
F4 F50	71	2
F4 F7 F8 F9 F50	78	12
F6	4	2
その他	93	3

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、250床を有する単科精神病院である。昭和31年創立以来、上十三地区を主に青森、むつ地域からも多くの患者様を受け入れて来た。統合失調症が多いが、気分障害、人格障害、ストレス関連障害等も増えている。

また、知的障害、てんかん、アルコール関連疾患、統合失調症等患者が入所する連携障害者施設6ヵ所を外来で診察しており、状態悪化で入院治療を要する場合も多い。心理士による認知療法を含む心理療法、作業療法、集団レクリエーション療法、訪問看護も充実している。輪番制の精神科救急システムに参加しており、現在、年間平均で措置入院3件、医療保護入院が41件程ある。

十和田准看護学院（昭和39年設立）は、昨年で総卒業者数1,264名となり、一学年20～26名の学生に対し精神科疾患の授業を当院医師で担当している。学生の実習では担当患者の主治医として学生への教育も担当している。

自立支援、社会復帰に力を入れており、県内でも早い時期にデイケアを設立し、現在一日平均でデイケア37人、デイナーケア18人が利用している。

社会復帰の一環である就労支援としては、農園での作業（果樹や野菜の収穫、加工、販売）を行い、法人運営の総合式場等へ販売している。また病院の清掃、法人所有地内の環境整備、院内洗濯作業に障がい者雇用を取り入れ、当院での治療を継続しているメンバーも数名いる。

(20) 施設名：医療法人社団 立青会 なるかわ病院

- ・施設形態：私的単科精神科病院
- ・院長名：橋本 和明
- ・指導責任者氏名：橋本 和明
- ・指導医人数：（2）人
- ・精神科病床数：（360）床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	324	247

F1	26	18
F2	325	225
F3	386	93
F4 F50	169	107
F4 F7 F8 F9 F50	220	25
F6	9	1
その他	13	2

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

当院は、北海道の南、函館市に隣接する七飯町にあり、精神科病床 120 床、精神療養病床 180 床、精神科急性期治療病床 60 床の他、内科療養病床 36 床を持つ病院で、精神科救急医療体制への参加、精神鑑定の実施など道南圏域において精神科の基幹病院の一つとしての役割を担っております。

症例としては、入院患者では認知症患者が約 3 割、統合失調症が 3 割、神経症性障害が 1 割等となっておりますが、身体疾患を合併するケースも多く、様々な経験を積むことができます。

外来では、一般精神科として精神科疾患全般にわたる症例を診療対象としており、七飯町のみならず、函館市や近隣市町からの患者様も多く、年々増える傾向にあります。

また、精神科訪問看護・精神科作業療法にも力を入れており、患者様の退院・社会復帰に向けた取組み、支援も積極的に進めております。

(21) 施設名： 津軽保健生活協同組合 藤代健生病院

- ・施設形態： 私的単科精神科病院
- ・院長名： 関谷 修
- ・指導責任者氏名： 千石 利広
- ・指導医人数： (3) 人
- ・精神科病床数： (248) 床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患	外来患者数（年間）	入院患者数（年間）
F0	2022	229
F1	217	57
F2	741	211
F3	561	86
F4 F50	134	8
F4 F7 F8 F9 F50	5	1
F6	65	11
その他	269	30

・施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

急性期治療病棟を中心に入院精神科医療全般について学ぶことができる。対象としている疾患は、気分障害、統合失調症、認知症、物質依存など広範にわ

たり、年齢層も児童思春期から老年期に及ぶ。したがって精神科における一般的な疾患についての知識や基本的技能、薬物療法、行動制限の手順など基礎的な技能と法的な知識を学ぶことができる。生活協同組合の地域活動を通じて地域精神医療を直に学ぶこともできる。当院では開設以来40年以上にわたり依存症治療に力を入れてきた。

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1. 患者及び家族との面接、2. 疾患概念の病態の理解、3. 診断と治療計画、4. 補助検査法、5. 薬物・身体療法、6. 精神療法、7. 心理社会的療法など、8. 精神科救急、9. リエゾン・コンサルテーション精神医学、10. 法と精神医学、11. 災害精神医学、12. 医の倫理、13. 安全管理。各年次毎の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目：基幹病院または連携病院で、指導医と一緒に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン・精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法、精神分析・精神力動療法、森田療法のいずれかのカンファレンス、セミナーに参加する。院内研究会や学会で発表・討論する。

2年目：基幹病院または連携病院で、指導医の指導を受けつつ、自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事して対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。ひきつづき精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。

3年目：指導医から自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

3) 個別項目について

倫理性・社会性

基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。リエゾン・コンサルテーションを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

① 学問的姿勢

専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や積極的に国際誌などへの投稿を進める。

② コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

③ 学術活動（学会発表、論文の執筆等）

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事しその成果を学会や論文として発表する。また、連携施設において臨床研究を継続する。

④ 自己学習

各病院に教育用の図書やDVDが充実しているため、それらを用いて積極的に自己学習できる。また、読んでおくべき論文も準備している。

4) ローテーションモデル

原則的には1年目に常勤医として基幹病院（弘前大学医学部附属病院）で研修を行い、精神科医としての基本的な知識、技術を身につける。受け入れ人数他、またはカリキュラム制により基幹病院以外も可能である。専攻医には1年間専属の指導医がスーパーバイズを行うので、積極的に乳幼児や児童思春期症例、器質性精神障害症例、難治症例など、特定機能病院でのみ経験できる症例の治療に当たる。指導医の行っている専門的な治療を習得し、研究活動に参加して、最新の精神医学に触れる機会を持つ。

2～3年目には病床のある総合病院精神科^{※1}、公的な単科精神科病院^{※2}、私的単科精神科病院^{※3}、入院施設のない総合病院^{※4}、精神保健行政機関^{※5}をローテートし、身体合併症治療、難治・急性期症例、認知症症例、司法関連症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。また、基幹病院継続も可能である。

これら3年間のローテート順については、柔軟な対応が可能である。主なローテーションパターンについて、別紙1に示す。

※1. むつ総合病院、つがる総合病院、十和田市立中央病院、八戸市立市民病院、大館市立総合病院

※2. 県立つくしが丘病院、弘前愛成会病院

※3. 高松病院、聖康会病院、布施病院、松平病院、湊病院、青南病院、黒石あけぼの病院、東台病院、十和田済誠会病院、なるかわ病院、藤代健生病院

※4. 市立函館病院

※5. 青森県立精神保健福祉センター

5) 研修の週間・年間計画

別紙2と別紙3を参照。

4. プログラム管理体制について

・プログラム管理委員会

委員長：中村和彦

委員：医師-斉藤まなぶ

医師-富田 哲

医師-田崎博一

医師-坂本卓子

医師-堀内雅之

医師-谷地森康二

医師-海老名恵

医師-安藤嘉朗

医師-北条 敬

医師-知多美彦

医師-田中 治

医師-平野敬之

医師-林本 章

医師-工藤清次郎

医師-村本幸榮

医師-深澤 隆

医師-佐々木全英

医師-古郡華子

医師-佐藤 靖

医師-畠山光徳

医師-江渡篤子

医師-橋本和明

医師-関谷 修

看護師-落合聖子

公認心理師-大里絢子

・プログラム統括責任者

中村和彦

・連携施設における委員会組織

研修プログラム連携施設担当者と専門研修指導医で委員会を組織し、個々の専攻医の研修状況について管理・改善を行う。

5. 評価について

1) 評価体制

弘前大学医学部附属病院：中村和彦
市立函館病院精神神経科：安藤嘉朗
つがる総合病院：坂本卓子
青森県立つくしが丘病院：庭山英俊
弘前愛成会病院：片貝宏
高松病院：海老名恵
十和田市立中央病院：谷地森康二
松平病院：北條敬
聖康会病院：知多美彦
青森県立精神保健福祉センター：田中治
八戸市立市民病院：平野敬之
布施病院：林本章
湊病院：工藤清次郎
芙蓉会病院：村上拓也
青南病院：深澤隆
むつ総合病院：佐々木全英
黒石あけぼの病院：藤田康文
大館市立総合病院：佐藤靖
東台病院：畠山光徳
十和田済誠会病院：江渡篤子
なるかわ病院：橋本和明
藤代健生病院：千石利広
弘前大学医学部附属病院看護師：落合聖子
弘前大学大学院医学研究科公認心理師：大里絢子

当該研修施設の指導責任者は専攻医の知識、技術、態度のそれぞれについて、メディカルスタッフの意見を聞き、年次毎の評価を含める。具体的には各施設の看護師、精神保健福祉士、心理士などが、6ヶ月ごとに専攻医の態度やコミュニケーション能力について評価し、その結果を勘案してプログラム統括責任者がフィードバックを行う。評価方法は以下に示すように5段階評価とする。総括的評価もその結果に基づいて、プログラム管理委員会が行う。

(評価方法)

患者に対する態度と面接技術：0・1・2・3・4

家族に対する態度とコミュニケーション：0・1・2・3・4

メディカルスタッフに対する態度とコミュニケーション：0・1・2・3・4

診療に対する積極的姿勢：0・1・2・3・4

真摯に自己研鑽を行う態度：0・1・2・3・4

など

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導

医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。

- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回おこなう。

弘前大学病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。プログラム運用マニュアルは以下の専攻医研修マニュアルと指導医マニュアルを用いる。

- 専攻医研修マニュアル(別紙)
- 指導医マニュアル(別紙)
- ・ 専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価をおこない記録する。少なくとも年に1回は形成的評価により、指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価をおこなうこと。研修を修了しようとする年度末には総括的評価により評価が行われる。

- ・ 指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価をおこない、指導医も形成的評価をおこない記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的評価をおこない評価者は「劣る」、「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックをおこない記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

- 1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理)
各施設の労務管理基準に準拠する。
- 2) 専攻医の心身の健康管理
健康管理基準に準拠する。
- 3) プログラムの改善・改良
基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。
- 4) FDの計画・実施
年1回プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況进行评估する。

ローテーションのパターン

各年度、研修施設をローテートすることが望ましい。連携施設に研修中でも基幹病院での研究や論文の指導は可能である。以下、研修計画例を示す。

1年目

基幹病院

※カリキュラム制により、基幹病院以外からスタートも可能

2年目

総合病院
または
単科病院

※経験症例により、基幹病院研修の継続は可能

3年目

総合病院
または
単科病院

※基幹病院・行政機関研修は可能

週間スケジュール

弘前大学病院

	月	火	水	木	金
8:15-8:30	新患・新入院カンファレンス	新患・新入院カンファレンス	新患・新入院カンファレンス	脳波判読会 新患・新入院カンファ	新患・新入院カンファレンス
8:30-12:30	m-ECT 新患予診 リエゾン	病棟業務 専門外来	新患予診 リエゾン	m-ECT 乳幼児新患	新患予診 リエゾン
13:30-17:00	病棟業務 病棟カンファレンス	専門外来 病棟業務	病棟業務	教授回診 症例カンファレンス	病棟業務
17:00-18:00			勉強会（隔週）	講座連絡会（月1） 抄読会（隔週）	
18:00-19:30	新人講義	研究カンファレンス（月1）			

研修連携施設

(1) つがる西北五広域連合 つがる総合病院

	月	火	水	木	金
8:30-12:00	外来診療 （再来）	外来診療 （再来）	外来診療 （新患）	外来診療 （再来）	外来診療 （新患）
13:00-17:00	入院診療、 救急患者対応	入院診療、 救急患者対応	入院診療、 救急患者対応	入院診療、 救急患者対応	入院診療、救急患者対応 16:00~ カンファレンス

(2) 青森県立つくしが丘病院

	月	火	水	木	金
8:15 ~ 8:30	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
8:30 ~ 12:15	外来業務 ショートケ ア	外来業務 ショートケ ア	外来業務 ショートケ ア	外来業務 ショートケ ア	外来業務 ショートケ ア
13:30 ~ 16:20	病棟業務 認知行動療 法 児童相談所	病棟業務 訪問看護 児童思春期 外来	病棟業務 発達障害 GW	病棟業務 回復セミナ ー 院長回診 施設往診	病棟業務 訪問看護 デイケア
16:20 ~ 16:45		症例検討 新患カンファ		医局会	
17:00 ~ 18:00	院内研修 (適宜)				

(3) 弘前愛成会病院

	月	火	水	木	金
8:25~9:00	新患・新入院 カンファレン ス	新患・新入院 カンファレン ス	新患・新入院 カンファレン ス	新患・新入院 カンファレン ス	新患・新入院 カンファレン ス
午前	病棟運営会議	病棟診療	外来診療 ECT	脳波判読会 病棟診療	外来診療 ECT
午後	外来診療 ECT	退院症例カン ファレンス 外来診療	病棟診療	地域・在宅	病棟診療
	病棟診療	ECT			
16:30~	個別症例検討	医局会(1/月) 抄読会(1/月) 講義(随時)	個別症例検討	個別症例検討	個別症例検討

(4) 高松病院

	月	火	水	木	金	土(第1.3.5)
午前	外来診療	病棟診療	外来診療	外来診療	病棟診療	外来・病棟診療 認知症カフェの 参加(1/月)
午後	病棟診療 医局会	病棟診療	病棟診 療、	病棟診 療、症例	病棟診 療、	休日

	(1/月)	施設往診、デイケア、地域相談、	病棟カンファレンス	検討会 画像カンファレンス	研修会、委員会	
--	-------	-----------------	-----------	------------------	---------	--

(5) 市立函館病院

	月	火	水	木	金
8:30	打ち合わせ 外来診察（新患の予診と診察陪席・再来診察） 身体科病棟でリエゾン・コンサルテーション担当症例の診察				
13:00	身体科病棟でリエゾン・コンサルテーション担当症例の診察				
16:30	抄読会	緩和ケア カンファレンス	症例検討会		カンファレンス

(6) 十和田市立中央病院

	月	火	水	木	金
8:30-8:50	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス	朝カンファレンス
8:50-	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
12:30-	リエゾン	リエゾン	リエゾン	リエゾン	リエゾン
13:30-13:50	昼カンファレンス	昼カンファレンス	昼カンファレンス	昼カンファレンス	昼カンファレンス
13:50-	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
		集団精神療法			病棟カンファレンス

(7) 松平病院

	月	火	水	木	金	土
午前	外来診療	デイケア	外来診療	休	外来診療	病棟診療

	病棟診療	アニマルセラピー	病棟診療		病棟診療	作業療法
午後	病棟診療	病棟診療	病棟診療	休	病棟診療	病棟診療
	入退院事前カンファ		入退院カンファ			
※院内感染防止対策委員会、医療安全対策委員会、行動制限最小化委員会、褥瘡対策委員会、栄養管理委員会、衛生委員会						
救急学習委員会、個人情報保護法対策委員会（毎月実施）						

(8) 聖康会病院

	月	火	水	木	金	土 (第1・3・5)
9:00-	入院診療 および デイケア見学	入院診療 および外 来診療 (再来)	入院診療 およびデ イケア見 学	入院診療 および外 来診療 (新患)	入院診療 および外 来診療 (再来)	入院診療および 外来診療 (新患)
13:30-	入院診療	入院診療	入院診療	入院診療	入院診療	
16:00-				精神医学 セミナー (弘前愛 成会病院、 月1回) 18:00~	医局カン ファレン ス、文献抄 読、講義	

(9) 青森県立精神保健福祉センター

	月	火	水	木	金
午前	外来診療 (予診、指導 医診察陪席 など)	外来診療 (予診、指 導医診察陪 席など)	カンファレ ンス	外来診療 (予診、指導 医診察陪席 など)	外来診療 (予診、指導 医診察陪席 など)
午後	デイケア業務 相談業務	デイケア業 務 相談業務	研修会、 個別指導	発達障害ショ ートケア業務	デイケア業務 相談業務

(10) 八戸市立市民病院

	月	火	水	木	金
8:30-10:30	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
10:30-11:30	外来新患業務	外来新患業務	外来業務	外来新患業務	外来新患業務
11:30-13:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:30-15:00	リエゾン・病棟業務	リエゾン・病棟業務	リエゾン・病棟業務	リエゾン・病棟業務	リエゾン・病棟業務
15:00-16:00			病棟カンファ		
15:30-17:00	リエゾン・病棟業務	リエゾン・病棟業務	リエゾン・病棟業務	リエゾン・病棟業務	リエゾン・病棟業務

(11) 布施病院

	月	火	水	木	金
8:30-12:00	外来業務	入院業務	外来業務	入院業務	外来業務
13:00-	入院業務	入院業務	入院業務	入院業務	入院業務
16:00-	外来カンファレンス	病棟カンファレンス		病棟カンファレンス	

(12) 湊病院

	月	火	水	木	金
8:30~9:00	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00~12:00	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務
12:00~13:00	医局会義				
13:30~17:00	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務
17:00~18:00					症例検討会

(13) 芙蓉会病院

	月	火	水	木	金
午前	外来予診	外来陪席	病棟業務	外来陪席	病棟業務
午後	病棟業務	医局会（第2・4）症例検討会	病棟業務、デイケア業務	病棟業務、病棟カンファレンス	病棟業務 集団精神療法

(14) 青南病院

	月	火	水	木	金
8:30～9:00	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00～12:00	外来業務	病棟業務	外来業務	病棟業務	病棟業務
12:00～13:00					
13:30～17:00	病棟業務 医局カンファ	症例検討会 多職種ミーティング 各種会議	外来業務 地域支援業務	病棟業務 医局会	病棟業務 振り返り
17:00～18:00					

(15) むつ総合病院

	月	火	水	木	金
8:30～	朝カンファ レンス	朝カンファ レンス	朝カンファ レンス	朝カンファ レンス	朝カンファ レンス
8:50～	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
12:30	リエゾン	リエゾン	リエゾン	リエゾン	リエゾン
13:30～	昼カンファ レンス	昼カンファ レンス	昼カンファ レンス	昼カンファ レンス	昼カンファ レンス
13:50～	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
		集団精神 療法			病棟カンファ レンス

(16) 黒石あけぼの病院

	月	火	水	木	金
8:25~9:00	新患・新入院 カンファレンス	新患・新入院 カンファレンス	新患・新入院 カンファレンス	新患・新入院 カンファレンス	新患・新入院 カンファレンス
午前	病棟運営会議	外来診療	病棟診療	外来診療	脳波判読会 病棟診療
午後	病棟診療	退院症例カンファレンス	病棟診療	地域・在宅	病棟診療
16:30~	個別症例検討	医局会 (1/月) 抄読会 (1/月) 講義(随時)	個別症例検討	個別症例検討	個別症例検討

(17) 大館市立総合病院

	月	火	水	木	金
8:30~ 9:00					
9:00~ 12:00	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療	外来診療
13:00~ 15:00	病棟・リエゾン業務	病棟 認知症疾患 センター	病棟・リエゾン業務	病棟・リエゾン業務 認知症回診	病棟・リエゾン業務
15:00~ 16:00	病棟カンファレンス	病棟業務	緩和ケアカンファ	病棟業務	病棟業務
16:00~ 17:30	病棟業務	病棟業務	外来カンファレンス クルズ	病棟業務	病棟業務

(19) 東台病院

	月	火	水	木	金
8:30-9:00	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ	朝カンファ
9:00- 12:00	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務	外来業務
13:00- 16:30	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務

16:30-		症例検討 新患カンファ		医局会	
	院内研修 (適宜)				

(20) 十和田済誠会病院

	月	火	水	木	金	土
午前	病棟業務	病棟業務	外来	病棟業務	病棟業務	病棟業務 (第1.3.5休)
	外来陪席	外来陪席		集団レク		
午後	病棟業務	施設外来	病棟業務 心理合同症 例検討会 施設合同検 討会	病棟業務	病棟業務	

(21) なるかわ病院

	月	火	水	木	金
9:00 12:00	病棟業務	外来業務	病棟業務	外来業務	外来業務
13:00 15:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
15:00 17:00	病棟業務 個別症例検討	病棟業務 医局会議(月 1) 新入院カンフ ァレンス	病棟業務 個別症例検討	病棟業務 個別症例検討	病棟業務 個別症例検討
その他					

(21) 藤代健生病院

	月	火	水	木	金	土
始業前	申し送り 新患紹介	申し送り 新患紹介	申し送り 新患紹介	申し送り 新患紹介	申し送り 新患紹介	
午前	回診	外来	病棟	外来	病棟	病棟
午後	回診	病棟	病棟 リハビリ	病棟	病棟	

			プログラム			
5時以降					医局会 (月1回) 医局学習会 (月3~4回) …※	

その他：病棟カンファレンス（毎朝）、当直（週1回）、医療安全学習会（適時）
 感染対策学習会（適時）、医療倫理学習会（適時）

※ 医局学習会の内容…月2回：症例検討会、月1~2回：精神医学論文抄読会

年間スケジュール

弘前大学病院

4月	オリエンテーション SR1 研修開始 SR2・3 前年研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	新人講義開始 弘前市精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加・演題発表 弘前大学精神医学講座同窓会参加
7月	日本うつ病学会参加（任意） 東北児童青年精神医学会参加（任意） 北東北精神科医会参加
8月	第1回研修プログラム管理委員会 研修病院見学
9月	弘前市精神科医会 参加 日本生物学的精神医学会参加（任意）
10月	SR1・2・3 研修中間報告書提出 教室研究会参加 日本児童青年医学会参加（任意） 日本認知療法学会参加（任意） 日本臨床精神神経薬理学会参加（任意） 東北精神神経学会参加・演題発表
11月	青森県精神科医会 参加 総合病院精神医学会参加（任意）
12月	弘前市精神科医会 参加
1月	
2月	日本不安症学会参加（任意）
3月	第2回研修プログラム管理委員会 SR1・2・3 研修報告書 研修プログラム評価報告書の作成 日本統合失調症学会（任意）

研修連携施設

(1) つがる西北五広域連合 つがる総合病院

4月	オリエンテーション
5月	市精神科集団会参加 五所川原精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学界参加（任意）
7月	日本うつ病学会参加（任意）
8月	
9月	市精神科集団会参加
10月	日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	総合病院精神医学会参加（任意）
12月	五所川原精神科医会参加
1月	
2月	市精神科集団会参加
3月	

(2) 青森県立つくしが丘病院

4月	オリエンテーション
5月	診療部業務検討
6月	日本精神神経学会学術総会（任意）
7月	診療部業務検討 地区精神科医研修会
8月	
9月	中間評価
10月	東北精神神経学会（任意）
11月	県精神科医会 地区精神科医研修会
12月	
1月	診療部業務検討
2月	

3月	地区精神科医研修会
----	-----------

(3) 弘前愛成会病院

4月	オリエンテーション、弘前地区精神科医会、精神医学セミナー
5月	精神医学セミナー
6月	日本精神神経学会学術総会、精神医学セミナー
7月	精神医学セミナー
8月	精神医学セミナー
9月	弘前地区精神科医会、精神医学セミナー
10月	東北精神神経学会、東北精神保健福祉学会、精神医学セミナー
11月	日本精神科医学会学術大会（任意）、精神医学セミナー
12月	弘前地区精神科医会、精神医学セミナー
1月	精神医学セミナー
2月	精神医学セミナー
3月	精神医学セミナー、研修プログラム評価報告書の作成

(4) 高松病院

4月	オリエンテーション
5月	上十三精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年精神医学会参加
7月	認知症疾患医療センター研修会参加
8月	
9月	日本認知症予防学会参加
10月	東北精神神経学会総会参加
11月	認知症疾患医療センター研修会参加
12月	
1月	
2月	上十三精神科医会参加
3月	研修報告会

その他	医師会等が開催する研修会に随時参加
-----	-------------------

(5) 市立函館病院

4月	新入医局員オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 弘前大学神経精神医学教室同窓会講演会参加
7月	緩和ケア研修会参加
8月	
9月	
10月	
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

(6) 十和田市立中央病院

4月	オリエンテーション
5月	上十三精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加（任意）
9月	上十三精神科医会参加
10月	日本児童青年精神医学会参加（任意）
2月	上十三精神科医会参加
3月	県精神科医会参加 研修プログラム評価報告書の作成
その他	医療観察法ケア会議参加（年数回） 集団精神療法（各週） 児童相談所（月1回）

	アウトリーチ（保健センターと協同で随時） 訪問診療（随時） 認知症地域啓蒙活動（年数回） 市役所・保健センターでの もの忘れ相談、心の相談（月1回）
--	--

(7) 松平病院

4月	オリエンテーション 八戸精神科医会参加
5月	八戸精神科医会参加 家族教室
6月	日本精神神経学会学術総会参加 八戸精神科医会参加 院内症例発表会
7月	八戸精神科医会参加 家族教室
8月	八戸精神科医会参加
9月	八戸精神科医会参加 家族教室
10月	東北精神神経学会参加 八戸精神科医会参加
11月	八戸精神科医会参加 家族教室
12月	
1月	八戸精神科医会参加 家族教室
2月	東北神経心理懇話会参加 八戸精神科医会参加
3月	研修プログラム評価報告書作成

	家族教室
--	------

(8) 聖康会病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	弘前地区精神科医会参加
8月	
9月	
10月	東北精神神経学会参加（演題発表含む）
11月	青森県精神科医会参加 弘前地区精神科医会参加
12月	
1月	弘前地区精神科医会参加
2月	
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

(9) 青森県立精神保健福祉センター

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会総会参加
7月	地区精神科医会参加
8月	
9月	中間評価の実施
10月	東北精神神経学会参加(演題発表を目標に)
11月	地区精神科医会参加
12月	
1月	日本社会精神医学会参加、地区精神科医会参加

2月	
3月	研修報告会

(10) 八戸市立市民病院

4月	オリエンテーション
5月	八戸市精神科医会
6月	(日本精神神経学会学術総会参加)
7月	八戸市精神科医会
8月	
9月	八戸市精神科医会
10月	八戸市精神科医会 東北精神神経学会参加・演題発表
11月	八戸市精神科医会
12月	
1月	八戸市精神科医会
2月	
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

(11) 布施病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
	日本老年精神医学会参加 (任意)
7月	
8月	夏祭り
9月	
10月	日本児童青年精神医学会参加 (任意)
	東北精神神経学会参加

11月	
12月	クリスマス会
1月	
2月	
3月	

(12) 湊病院

4月	オリエンテーション
5月	日本自殺予防学会参加（任意）
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加（任意）
7月	
8月	
9月	
10月	精神保健福祉全国大会参加（任意）
11月	日本てんかん学会学術総会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

(13) 芙蓉会病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加
7月	
8月	
9月	精神神経学会地方会
10月	
11月	
12月	
1月	

2月	研究報告会
3月	

その他、医師会が開催する「医療倫理」「感染対策」「医療安全」の各研修に参加する。

(14) 青南病院

4月	オリエンテーション
5月	八戸精神科医会
6月	日本精神神経学会、日本老年精神医学会、八戸精神科医会
7月	認知症疾患医療センター研修会、八戸精神科医会
8月	
9月	日本認知症予防学会、八戸精神科医会
10月	東北精神神経学会、八戸医学会、八戸精神科医会
11月	法人内研究会、アルコール関連問題学会、八戸精神科医会
12月	認知症疾患医療センター研修会、臨床薬理学会
1月	八戸精神科医会
2月	
3月	八戸精神科医会、総括的評価、報告書の作成

※ その他、東北地方や八戸地域で開催される各種研究会や講演会、多職種連携ミーティング等に参加。

(16) むつ総合病院

4月	新入医局員オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加 弘前大学神経精神医学教室同窓会講演会参加
7月	
8月	
9月	
10月	緩和ケア研修会参加
11月	日本総合病院精神医学会総会参加（任意）

12月	青森県精神科医会参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

(17) 黒石あけぼの病院

4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	弘前地区精神科医会参加
8月	
9月	
10月	東北精神神経学会参加（演題発表含む）
11月	青森県精神科医会参加 弘前地区精神科医会参加
12月	
1月	弘前地区精神科医会参加
2月	
3月	総括的評価 研修プログラム評価報告書の作成

(18) 大館市立総合病院

4月	オリエンテーション
5月	地域精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加 日本老年医学会参加（任意）
7月	
8月	
9月	

10月	日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	総合病院精神医学会参加（任意） 日本認知症学会参加（任意） 日本臨床神経精神薬理学会（任意）
12月	
1月	
2月	地域精神科医会参加
3月	県精神科医会参加 研修プログラム評価報告書の作成
その他	認知症疾患医療センター業務 認知症地域啓蒙活動（年数回） 集団精神療法（適宜） 緩和ケアチームの一員としての活動 デイケア 断酒会 訪問診療

(19) 東台病院

4月	オリエンテーション
5月	市精神科集団会参加 大館精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	市精神科集団会参加
10月	日本児童青年精神医学会参加（任意）
11月	
12月	大館精神科医会参加
1月	
2月	市精神科集団会参加
3月	

(20) 十和田済誠会病院

4月	オリエンテーション
5月	上十三精神科医会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	上十三精神科医会参加
10月	東北精神神経科学会総会参加（任意）
11月	
12月	
1月	
2月	上十三精神科医会参加
3月	地域活動支援センター主催セミナー参加 研修プログラム評価報告書作成

(21) なるかわ病院

4月	オリエンテーション
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	日本精神科医学会学術大会参加
10月	日本精神科救急学会学術総会参加 日本児童青年精神医学会参加
11月	日本臨床精神神経薬理学会総会参加
12月	
3月	研修プログラム評価報告作成
その他	適宜 症例検討 入退院カンファレンス 抄読会の実施

(21) 藤代健生病院

4月	オリエンテーション
5月	病院大会
6月	日本精神神経学会総会参加
7月	
8月	

9月	
10月	東北精神神経学会総会参加
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	研修の総括